

【議事】定 38

(2) 陸域観測技術衛星「だいち」の初期校正検証運用終了及び定常観測運用開始について

JAXAの堀川理事と富岡プロマネが資料38-2(だいちの運用)を説明した後、下記の通り質疑応答があった。ハワイのキラウエアの火口部で隆起があったことを検出したことなど、観測結果が沢山紹介された。

青江：ハワイの隆起と噴火予測とはつながるのか。

JAXA 富岡：なかなか難しいようである。図の右側の部分と呼び、口が開いてマグマが流れ出す部分である。この部分にGPSを設置して、観測を継続している。

青江：噴火予知連があるが、それとの関係は。

JAXA 富岡：千原さんから説明があったように、関連国内機関の協力により、監視対象の火山をマークし、定常的にデータを渡していく仕組みができています。

青江：取ったデータは全て使っていただくよう、骨の髄までしゃぶってもらうようにしていただきたい。

JAXA 堀川：高価な衛星なので、そのようにしたい。

野本：どの位の要求が入っているのか。

JAXA 富岡：撮像する量の倍の要求が入っている。1シーンに2ユーザーが居る勘定になる。

JAXA 堀川：10%の予備枠を残して運用しているが、目一杯利用していただいている。

野本：遊んでいる時間は無いということですね。

青江：予備枠は災害時のためにとっているのか。

JAXA 堀川：優先度を決めてあり、それに基づいて行う。

JAXA 富岡：60回の災害要請を見込んでこの予備枠を決めた。青江：海外だとどう利用されたか追跡しにくい。国内にも要求があり、これは追跡しやすいので結構である。

井口：「みどり」は10ヶ月で運用を終了したが、その前にトラブルが観測されていた。「だいち」の具合はどうか。

JAXA 富岡：初期故障の発生は一年までといわれており、「だいち」もそこに近付いている大事な時期にある。今のところトラブルは無い。

松尾：その技術的理由が解っていれば。勿体無い。

JAXA 堀川：熱サイクルが要因の一つであることが解っている。

森尾：機械部品の耐久性という要素は無いのか。

JAXA 富岡：定常的に駆動しなければならないものが三つある。そのうちアンテナはフィードフォワードしており、パドルは改善に向かっている。

森尾：設計寿命は3年になっているが、その続きはどうするのか。

井口：それは我々が解決する課題である。

青江：ALOS後継機という形ではないが、防災監視の中で考えていこうとしている。

JAXA 堀川：防災運用が重要であることは大切で、5年後を目処に可視とレーダの衛星を提案して行きたいと考えている。